

Comparative Analysis of Monitoring Neuromuscular Block at the Upper Lip, Corrugator Supercilii Muscle, and Thumb

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松峯, 瑠衣 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30342

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙第 2809 号	氏 名	松峯 瑠衣
審 査 委 員 会	主 査 教 授	尾崎 眞	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>全身麻酔中の患者における筋弛緩効果を測定するために、上口唇における筋弛緩モニター方法について研究を行った。</p> <p>成人患者 54 名を上口唇群、皺眉筋群、母指群の 3 群に無作為に分けた。筋弛緩モニター機器 (TOF ウォッチ) に接続されている刺激電極を上口唇群では顔面神経上に、加速度トランスデューサーを鼻翼付近の上口唇上に装着し、皺眉筋群ではそれらを各々顔面神経上と前額部の皺眉筋上に、母指群では尺骨神経上と母指の屈側に装着した。3 群間で最大上刺激電流、ロクロニウム 0.6 mg/kg 投与後の筋弛緩効果発現時間と、T1/control の最低値、ロクロニウム投与 10、20、30…90 分後の T1/control と train-of-four (TOF) ratio (T4/T1) の回復について比較した。</p> <p>結果は、最大上刺激電流と筋弛緩作用発現時間は、3 群間で有意差を認めなかった。皺眉筋群ではロクロニウム投与後の T1/control の最低値と投与 10-20 分後における T1/control は上口唇群と母指群より高く、T1/control は、投与 60 分後と 80-90 分後には上口唇群よりも低値となった。TOF ratio は投与 20 分後において皺眉筋群で上口唇群と母指群よりも高値であった。</p> <p>以上より、顔面神経を刺激し上口唇上に加速度トランスデューサーを装着することによって、母指同様に筋弛緩モニターが可能であることが示され、臨床的に極めて有用な情報が得られた。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			